あまにゅう

青森県青年海外協力協会(AOCA) 広報誌
平成25年3月号（2013.3）
発行: 青森県青年海外協力協会
編集担当: 対馬千佳子(16－2 ボリビア)

ソーラー式ワクチン冷蔵庫プロジェクト支援決定!!

あまにゅう10月号でガーナへのソーラー式ワクチン冷蔵庫の支援を募りました。その結果、多くの皆様のおかげで予定の30万円よりも多くの募金（総額482,615円）が集まり、いよいよプロジェクト始動となりました。

活動中の伊藤さんからメールが届きましたので紹介します。

伊藤さんのブログはこちらへどうぞ→　http://mayu3da4.blog51.fc2.com/

ウンテーガ（こんにちは）！　現在ガーナの東北、アッパーイースト州の保健局で働いています伊藤です。ガーナでは現在ハマターンと呼ばれる季節風がひどく、サハラ砂漠からやってくる砂埃で、町全体が白く霧がかかっているような光景です。

さて、前回のあまにゅうで紹介しました「ソーラー式ワクチン冷蔵庫設置プロジェクト」について、今回は皆様へ御礼と報告をさせて頂きます。皆様の沢山のご支援を賜り、プロジェクト目標金額に達成することができました！皆様の温かいご協力あってこそ、ここまで辿り着けたのだと思います。本当に有難うございました。

お陰様で1月末にソーラー式ワクチン冷蔵庫を購入することができました。任地から業者のいる首都まで車で12時間移動し、調達部の担当者と機材が揃っているか、冷蔵庫が稼働するかをチェックし、全て確認ができ、無事に購入に至りました。これから設置と運用への後方支援を行うことになりますが、また次回のあまにゅうでその様子をお伝えしていきます！皆様の支援がしっかり形になるよう、大切に使わせて頂きます！

無事機材を購入でき、ドヤ顔の同僚

青年海外協力協会広報誌「あまにゅう」とは

主に青森県出身の青年海外協力隊の参加経験者からなる団体(AOCA)の広報誌です。この広報誌の発行を通し、県内在住のOB・OGの情報交換をするほか、私たちの活動に興味のある方々に私たちの活動についての理解を求めるとともに、国際協力・国際理解の輪を広げることを目的として発行しています。

「あまにゅう」の由来

「あまにゅう」は八甲田をはじめとした、高山にあり、きれいな白い花をさかせる植物です。青森に住んで、世界のことを考えながら決して途上国への情熱を忘れない、そんな協力隊経験者と通じるところがあるようで、機関誌を作ったときにその名前を採用されました。
なお、名付け親は川村宏義氏「あまにゅう」の初代編集者です。

ふるさと宅配便

1月4日　荒川市民センターでふるさと宅配便のお手伝いをしました。ふるさと宅配便とは現地で活動中の協力隊の皆さんに1月元旦の新聞を送り、青森を感じてもらおうという事業です。

大賀OB、乗田OB、川村OG（と、お子さんの優人君）、相馬OBの奥さんと3人の娘さんと私が参加しました。大賀さんが新聞を持ってきてそれをビニール袋に詰め込み、宛名を貼って15部作成しました。壮行会に出ていたおかげで7名の方たちの顔を思い出しながら宛名シールを貼りました。正月新聞なので枚数が多く、その上チラシ広告がありました。このチラシは赴任先で日本を知らせるために役に立っていると聞いて、なるほどと思いました。

当日は雪が降り吹雪模様でしたが市民センターの中は暖かく仕事はあっという間に終わり、その後は雑談したりして楽しいひと時でした。乗田さんはネパールに赴任していたとの事でネパールの話を聞いていたら、死んだ親父がネパールに2度も行って色々話してくれたことを思い出しました。ポカラという町がヒマラヤトレッキングのベースになる町だそうで、エベレストが見える町だとか？赴任中の15名の方々の健康と元気な活動を祈っています。送った新聞でふるさとを偲んでください。　　阿部悠二（S43-3　フィリピン　家畜飼育）

イベントで紹介　任国料理

弘前マルシェ、クリスマス・ポットラック・パーティ、地球のステージなど、最近のイベントでは各国の料理を出すというのが、AOCAメンバー内で流行しています。

今までイベントで任国の飲み物やお菓子を出すことはありました。ここ数年はそれがエスカレート（？）し、相馬OBによる南米のひよこ豆料理、村木OBによるアラブのコロッケ、千葉OGによるサモサなど提供されています。これからもいろいろなイベントで食べられるチャンスありです！次のイベントをお楽しみに。　　対馬千佳子（H16-2　ボリビア　村落開発普及員）

アラブのひよこ豆コロッケ「ファラーフェル」

平成２４年度３次隊が出発！

平成 24 年度 3 次隊
【青年海外協力隊】
佐藤 夕さん　（ベネズエラ、青少年活動）　黒石市出身
玉山 景子さん　（モロッコ、小学校教諭）　十和田市出身

玉山 景子さん（左）と佐藤 夕さん（右）

壮行会はいつも楽しいです。私の頃は壮行会は無く、今の隊員が羨ましいですね。女性の隊員が元気なことにいつも驚いています。また赴任してからの活動も時々垣間見えて心から喜んでいます。

若い時の 2 年間は短いものですが海外での 2 年間は実に後の人生の宝になると思います。友達をたくさん作って、帰国してからも継続して連絡を取り合ってくれればと思います。

赴任国の比較的底辺の人たちと触れ合えるのはこのような機会しかありません。国と国との理解は皆さんが与える日本人の印象が一番大事だろうと感じます。そして相手国の印象を本当に日本に伝えられるのも貴方達だろうと感じます。好き嫌い、そして気に入る気に入らないという感覚が一番正鵠を得ているような感じがします。

2 年間の生活を通して無事に帰国したら、話を聞かせてください。楽しみにしています。

阿部悠二（S43-3　フィリピン　家畜飼育）

東北ブロック会議では、震災復興支援報告を実施

11 月 10 日（土）に宮城県加美町にある薬来リゾートにて東北ブロック会議が行われました。青森県からは村木会長、大賀 OB（東北ブロック幹事）そして対馬の 3 名が参加しました。その他各県の OV、JICA、JOCA 関係者合わせて 23 名の参加となりました。

1 日目は各県の活動報告や、JICA、JOCA の事業報告。青森県からは「あまにゅう」を使って今年度の活動報告をしました。JICA からは応募説明会の参加者数及び協力隊応募者数の推移の報告、試験制度の変更（語学の会場試験の順次廃止、面接の地方への移行等）の説明などがありました。JOCA からは JOCA 30 周年記念行事及び JICA 50 周年記念行事についての説明がありました。

2 日目は東北ブロックの事業「地球生活体験セミナー」と JOCA の「震災復興支援」について。JOCA はその取り組みとして、岩手県遠野市の休耕田を復活させ、地域活性化を狙った活動を行っています。3 月の「地球生活体験セミナー」ではその取り組み拠点の「JOCA っぱハウス」を訪問し、意見交換をする予定となっています。

朝はＯＢ手作りのスリランカカレーでゆったり朝食

対馬千佳子（H16-2　ボリビア　村落開発普及員）

国際協力写真展、エッセイコンテスト、留守家族連絡会

2 月 2 日（土）、3 日（日）に弘前文化センターで国際協力写真展を行いました。

1 日目は写真展と同時に、JICA が主催する国際協力エッセイコンテストの表彰式も行いました。今年は中学生の部で、1 作品が独立行政法人国際協力機構　東北支部長賞、2 作品が青森県青年海外協力協会会長賞をみごと受賞。表彰式では受賞された方のエッセイの朗読と、フィリピン OG の松田朋恵さんとウガンダ OB の高橋和徳さんの協力隊の活動体験談の発表もありました。

2 日目は協力隊として現在活躍している隊員の家族を対象とした留守家族連絡会も同センターで行い、ガーナ＆スーダン OG の岩岡未佳さんとボリビア＆ペルー OG の私、対馬が体験談を発表しました。

写真展では JICA 青森デスクの越善さんが 3 年間かけて派遣隊員や OV たちから集めた写真を多数展示し、さらには新しく作成した任国のパネルや民芸品も展示しました。また、フェアトレードの普及活動を行っている「おひさまプロジェクト」によるフェアトレード商品の販売や、シリア難民支援のためのアレッポ石けんの販売も行われました。今回の写真展では多くの方が一枚一枚の写真の前で足を止めてじっくりと写真を見ている姿がとても印象的でした。

対馬千佳子（H16-2　ボリビア　村落開発普及員）

岩手被災地支援

中には「待ってたよ」と声をかけてくださる方もいました

今年度AOCAでは、昨年度実施した「ウィンターキャンプ for ふくしま kids」にご協力くださったワ・ラッセ様より義援金の預託を受け、岩手県山田町にて仮設住宅支援活動を行っています。

活動内容は“仮設住宅での青森県産品の販売”。山田町の仮設住宅では岩手県青年海外協力協会が野菜の訪問販売を定期的に行っており、その活動にご一緒させてもらう、という形で実施しています。

山田町の仮設住宅は郊外に位置し、高齢者も多いことから、この活動は“買い物弱者に対する買い物支援”を目的にスタートしました。現在ではコミュニケーションの場ともなっているようで、毎回楽しみにしてくれている方もいらっしゃいます。

青森からはこれまでりんごやせんべい汁、嶽きみ等を持っていきました。毎回すべてお買い上げいただき、私たちのことを待ってくださる方もいらっしゃいます。

同じ北東北、これからも継続して支援を行っていきたいと思います。

村木裕俊（H19-1　シリア　果樹栽培）

弘前マルシェに初参加しました
協力隊ナビ　in　弘前　第2弾

2012年10月28日（日）、弘前マルシェにてAOCAブースを出展し、協力隊ナビを実施しました。

月1回の実施が目標の協力隊ナビ。しかし広報、集客には苦労し、参集者0という回もありました。そこで考えたのがイベントでの協力隊ナビの実施。

アメニモマケズ
カゼニモマケズ

弘前マルシェは毎週日曜日、弘前駅前から土手町までの遊歩道で実施される農産物直売のイベントです。しかし物品、飲食物販売も認められています。そこでAOCAでは民芸品、飲食物販売で出店、資料展示し、弘前マルシェに来るお客さんをターゲットにした協力隊ナビを実施しました。

ブースは対馬OGから借りたりんご箱で台を設置するなど、おしゃれなブースに仕上がったのですが、当日は雨まじりの強風が吹き荒れる最悪なコンディション。資料は飛びまわり、テントは壊れ、協力隊ナビどころではなかったのですが、それでも立ち寄ってくださる方もいらっしゃり、お話をさせていただきました。

天気が良ければとても楽しかったであろうイベント。来年リベンジです！！

村木裕俊（H19-1　シリア　果樹栽培）

多文化共生地域連携強化推進事業「多文化共生フォーラム」

11月7日（水）、水産ビル7階で「多文化共生フォーラム」が開催されました。

フォーラムでは、最初に財団法人仙台国際交流協会の菊池哲佳さんによる基調講演があり、３．１１の時の仙台在住外国人の活躍などが紹介されました。この時まで、私は「災害の時は、日本語がわからない外国人がとても困るので、それを支援しないと」と思ってましたが、実際は在住外国人の方たちが真っ先に支援側に回り、通訳ボランティアなどとして、大活躍だったそうです。

次に、弘前市在住のギャレス・バーンズさん、八戸市在住のパク・ヒョンジャさん、青森市在住のミハイ・フロリン・アポストゥ・太田さんによるパネルディスカッションが行われましたが、そこでも、この外国から青森に移り住んだ人たちが、青森を好きになって、楽しく、たくましく暮らしていることを実感しました。

そのあとの分科会では、彼らも入って「子育て・教育」「日本語学習」「外国人への情報提供」「多文化共生地域づくり」「災害時の外国人支援」のグループに分かれ、活発な話し合いがありました。

海外から来たとか日本人だとか関係なく、今は縁があって青森で暮らしているんだからみんなが、やりたいことをできる街が、一番いいんじゃないかなと思いました。

津軽三味線奏者のギャレスさん

松舘文子（S61-1　タイ　人形制作）

みんなに知らせよう「ＪＯＣＶ５０周年」に向け、映画制作プロジェクト始動

来るべき２０１５年、青年海外協力隊事業が始まって 50 周年となります。その記念式典を日本武道館で開催することを目指して、青年海外協力隊の OB で組織する JOCA（青年海外協力協会）では、映画制作プロジェクトを立ち上げました。

以前、八千草薫さんなども出演され「アサンテサーナ」という協力隊の映画が作られ鑑賞された記憶をお持ちの方もあると思いますが、それ以来のこととなります。

協力隊員を経験後、様々な社会で活躍される OBOG も多く、「マリリンに逢いたい」など多くの映像先品を手がけた映画監督のすずきじゅんいち OB、ユニバーサルスタジオジャパンの映像担当をされ大坂此花区区長となった西原昇 OB、「告白」や「夜行観覧車」などの著作で知られる湊かなえ OG など、そうそうたる顔ぶれがいます。そのほかにも隊員活動時代たくさんのエピソードをもっている各地の OBOG の知恵を結集して、映画を作りたいと動き始めました。どうかお楽しみに。

大賀重樹（Ｈ５－１　ホンジュラス　小学校教諭）

アラブに里帰り

年末年始の長期休暇、アラブへ里帰りしてきました。旅した国はレバノン、ヨルダン、トルコ。私の任国、シリアは現在紛争中のため、残念ながら訪れることはできませんでした。

レバノンではシリアから避難している友人に会うことができました。こんな形での再会になるとは思ってもおらず、姿を目にしたときは涙を抑えることができませんでした。それでも「なんで泣いてるんだ？」と言わんばかりに笑いながら昔と同じように接してくれました。彼らは本当にたくましいです！ヨルダンではシリア難民支援に携わっているシリア OV からシリア難民の現状、支援活動について聞くことができました。

私の知人も犠牲になったり、家を失うなど多くが被害を受けています。私が住んでいた村も政府、反政府両軍の武力衝突により破壊されてしまったそうです。有効な手立てを打てないまま、刻々と過ぎ去る時間。しかしいつかは終わり、新しいシリアを再建する時が必ず来る。全国のシリア OV はその時を信じ、各地で支援活動を行っています。一刻も早くシリアに平和が訪れることを心から願っています。

村木裕俊（H19－１　シリア　果樹栽培）

ポットラックパーティ＆忘年会

青森には「ぷらっとワールドあおもり」という国際交流・協力団体が参加している組織があります。AOCA も 9 月から参加させていただくことになりました。そして、12 月 8 日に青森市水産ビルにて「ぷらっとワールドあおもり」によるクリスマス・ポットラック・パーティが行われました。

参加者は多国籍・老若男女。参加者が持ち寄った料理やプレゼント、そして多国籍な音楽やゲームと、とても楽しい時間を過ごしました。

その中に JICA のブースも出させていただきシリアのアレッポ石けんの販売や協力隊の活動写真の展示をしました。

その後はむつ市矢立温泉にて AOCA の忘年会。今回の幹事はむつ市在住の南澤 OB（マレーシア　日本語教師）。参加者には派遣前の隊員も混ざり、壮行会の場にもなりました。

くじ引きやリンゴの食べ比べがあり、例によって子供たちは楽しそうに走り回りとても楽しい時間を過ごすことができました。

対馬千佳子（H16-2　ボリビア　村落開発普及員）

今月以降の主な予定と情報

３月２日（土）－３日(日)	地球生活体験セミナーin 遠野	岩手県遠野市（JOCA っぱハウス）
３月７日（木）－９日(土)	写真展「私の国、私の青森」	青森市　アウガ（ぷらっとワールドあおもり主催）
３月 30 日（土）	JICA ボランティア春募集 応募説明会＆体験談	青森市水産ビル
５月	AOCA 役員会	
５月	AOCA 通常総会	

これらの他にも、JICA ボランティア経験者が様々な活動をしています。
AOCA ホームページや Facebook でも紹介していますので、ぜひ遊びに来てください。
AOCA URL: http://philo-sophia.me/aoca/　　Facebook:青森県青年海外協力協会で検索